

ニッポン

ドクター和の



臨終図巻

「Dr.和の町医者日記」と題して、かれこれ10年もブログを書いていきます。日々の出会い、患者さんとの一期一会、時には医療に対する怒りなども綴ります。

多忙で数日怠ると、「長尾先生、死んだの？」とコメントが寄せられることも…。そこでふと

考えます。もし私が突然死したら、このブログはどうなるんやろ、と。最近ではデジタル生前整理なる言葉まであるらしいですね。家族に知られたくないことまでネットのうちに残ってしまう現代です。

落語家の立川左談次さんが3月19日に亡くなられました。67歳。食道がんでした。がん

48 立川左談次



「抗がん剤治療開始。ナーバスか、足もとはコンパース」
「大丈夫、命を削る様な気で

「Twitterで病気を公表したら『いいね』『いいね』の嵐で思わず『よかねえやい！』と叫んだ、つてのはネタですからネタ…」

「Twitterで病気を公表したら『いいね』『いいね』の嵐で思わず『よかねえやい！』と叫んだ、つてのはネタですからネタ…」

「Twitterで病気を公表したら『いいね』『いいね』の嵐で思わず『よかねえやい！』と叫んだ、つてのはネタですからネタ…」

を公表したのは2016年8月。左談次さんは、闘病中の日々を隠すことなく、ツイッターで報告していました。以下は彼

長尾和宏（ながお・かずひろ）
東大医学博士、大阪府立第二内科局長、1995年京都府立総合医療センターに在籍。著「痛くない死に方」はベストセラー。関西国際大学客員教授。

幕「下りても遺した笑い

落語は演って無いから、むしろ寿命というモノを伸ばすために高座に上がっているのだ。つても凶々しいか（笑）」
思わずニヤリとしてしまう飄々（ひょうひょう）としたつぶやきの数々。時には、抗がん剤の副作用で髪がなくなった頭のアップの写真も投稿するサービ

「今日は病院から末廣亭に直行」とつぶややく日もあり、がんになってからも精力的に高座に上がっていたことがわかります。お客さんの笑顔を見るのが好きなので、闘病の息抜きになるとも語っています。公表から1年がたった昨年の秋ごろ。

「今日は耳鼻咽喉科、眼科、c t検査、食道外科の4軒掛け持ち、寄席なら売れっ子だね。さっ出陣！」とつぶやいています。声が出にくくなっていたようです。

「今日は耳鼻咽喉科、眼科、c t検査、食道外科の4軒掛け持ち、寄席なら売れっ子だね。さっ出陣！」とつぶやいています。声が出にくくなっていたようです。

食道がんが進行すると、せきや血痰が出たり声がかすれたりすることも。食道のすぐ隣に気管や声を調節している神経があり、がんが大きくなると呼吸器にも影響するのです。それでも左談次さんは試行錯誤の末、「サイレント落語」と称して、聞いただけで笑わせたり、ス

食道がんが進行すると、せきや血痰が出たり声がかすれたりすること

死後もなお人を笑わせ、励ます左談次さんの言葉。デジタル生前整理なんて不要な人でした。